

燃焼排ガス分析 / CO 測定器 ホダカテスト® HT-1210N

HT-1210N 取扱説明書



もくじ	ページ
はじめに	2
機能と目的	2
正確な計測のために	2
安全上のご注意	4
各部の名称とはたらき	6
操作の前に	8
操作の仕方 基本編	10
1 バッテリーを充電する	10
2 スタートする	11
3 計測を開始する	12
4 終了する	13
操作の仕方 応用編	14
5 データの保存・プリントアウト	14
6 計測項目の変更	15
7 COピーク値・平均値を計測する	15
8 再校正する	16
9 保存データを見る	16
10 データの消去	17
11 データの転送	18
12 日時の設定をする	19
13 範囲の設定をする	20
14 COアラームの設定をする	21
メインメニュー内マップ	22
計測項目	22
製品仕様	23,24
保管	24
メッセージ一覧	25
故障かな?と思ったら	26
プリントアウトについて	28
CO中毒について	29
給湯器点検用 吸引フードの取付け方	30
保証 / 校正・点検・修理	31

このたびはホダカテスト®HT-1210Nをお買い上げいただきまして、ありがとうございます。この取扱説明書をよくお読みの上、正しくお使いください。読み終わったあとは、大切に保管してください。

ホダカ株式会社

〒535-0031 大阪府大阪市旭区高殿 1-6-17

TEL 06-6922-5501 FAX 06-6922-5895

Email: ht@hodaka-inc.co.jp

URL <http://www.hodaka-inc.co.jp>

はじめに

■機能と目的

OHT-1210Nはこんな機能をもっています。

- ・排ガス中のガス分析 CO
- ・排ガス中の温度計測、室内温度の計測（オプション）

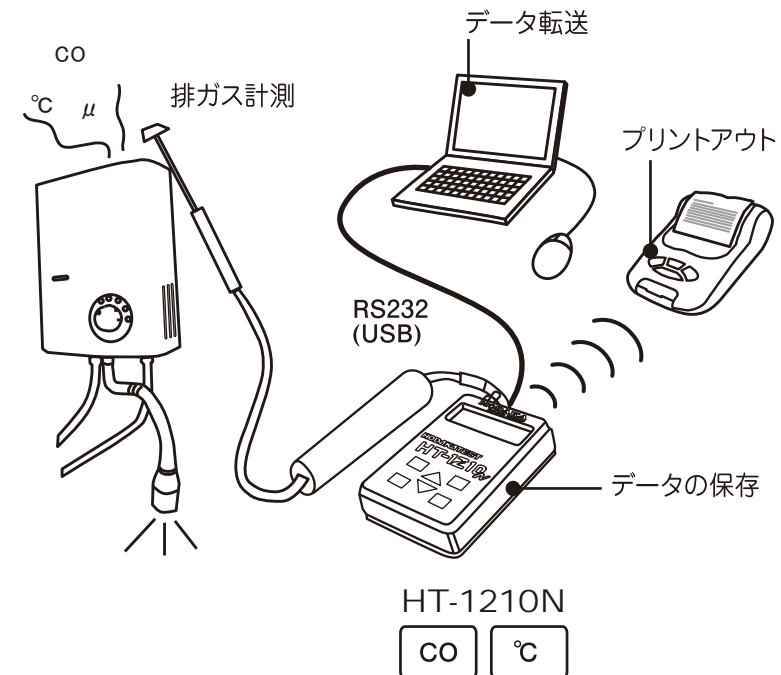
○次のような目的でご利用いただけます。

- ・オイル、ガスバーナの燃焼管理
- ・給湯機器、ストーブ、ファンヒーター、風呂釜のCO測定
- ・燃焼機器、厨房のCO測定
- ・温水、蒸気等の各種ボイラのメンテナンス
- ・焼却炉の環境分析
- ・ガラス炉、溶融炉等の各種工業炉の熱管理計として
- ・ガスエンジン、コージェネレーション設備の排ガス管理、メンテナンス
- ・その他、油やガスを燃焼する設備の排ガス、熱管理計測用に幅広く利用できます。

■正確な計測のために

⚠ 正確な計測を行うために、1年に1度は必ずホダカ㈱サービスセンターに校正を依頼してください。

センサの寿命は、使用頻度、ガス濃度、水分などによって大きく左右されます。一般的にCOセンサは約1年～3年で交換時期を迎えます。センサは使用していても、大気にはさらされた状態ですので、自然に消耗していきます。COセンサはH₂補償付（H₂成分の入ったガスを計測する場合に誤差が生じないようにする補償）



安全上のご注意

この計測器を正しくお使いいただくために、この項は必ずお読みください。

この取扱説明書には安全にお使いいただくために、いろいろな絵表示をしています。その表示の意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

危険

人が死亡または重傷を負う恐れが高い内容を示しています。

警告

人が死亡または重傷を負う恐れがある内容を示しています。

注意

人がけがをしたり、財産に損害を受ける恐れがある内容を示しています。



一般的な禁止



接触禁止



必ず行う



使用上のアドバイス

危険



この計測器は、弊社供給の電源のみで使用いただけます。それ以外の電源を使用した場合は、本体内部のバッテリーが引火する恐れがあります。引火した場合は、消火器で消火してください。



プローブの先端は尖っています。身体に危害を及ぼす恐れがありますので、注意してください。



この機器は防滴、防水ではありません。結露、浸水等で過熱や発煙する可能性があります。

警告



この計測器は防爆認定品ではありません。危険地帯での使用は避けてください。



計測中に本体から排気されるガスには毒性が含まれますので、排気や換気を十分に行いながら使用してください。



計測終了後、新鮮な空気を十分に通り、プローブを冷却してください。冷却しないうちは、火傷をすることがあります。また、プラスチック等の熱に弱いところに置くとプローブの余熱でいためることがあります。



ドレンポットに溜まる水分（ドレン水）は僅かに酸性になっていることがあります。皮膚にドレン水が触れた場合、即座に洗い流してください。また目に入らないように注意してください。



プローブの金属管や他の金属部品・クセサリーは、電気の導線として使用しないでください。

注意



ゼロ校正は必ずプローブの煙道から抜き、新鮮な空気を吸引してください。排ガスを吸引してのゼロ校正はセンサーを引き起こします。



HT-1210N は煙道中のガスの計測だけを目的としてご使用ください。



この計測器は、直火をあてたり、高熱の熱付近では使用しないでください。



この計測器を放り投げたり、落としたりしないでください。



計測中はドレンポット内にたまった水はこまめに取り除いてください。又、ドレン水は僅かに酸性となっておりますのでご注意ください。



アルコール化合物（有機溶剤、ガソリン、アルコール、ニス等）が蒸発したものは、分析計のセンサに影響を及ぼしますので、計測器の近くには置かないでください。



3週間に1度は、使用していなくても必ず作動させてください。長期作動させずに保管しているとセンサに異常がでる場合があります。



絶対に分解・改造等を行わないでください。



計測器は長期間作動させずに保管していても、バッテリーは放電してしまいます。そのまま放置し、完全に放電してしまった場合、充電しても電源ランプが点灯せず、充電する事が出来なくなる場合がありますので、使用していなくても、3週間に1回は必ず作動確認をし、充電を行ってください。



この計測器は、水中や水に濡れた状態では使用しないでください。



プローブや温度センサは許容温度範囲を超え使用しないでください。プローブや温度センサが壊れることがあります。



高温、多湿な場所での保管は避けてください。

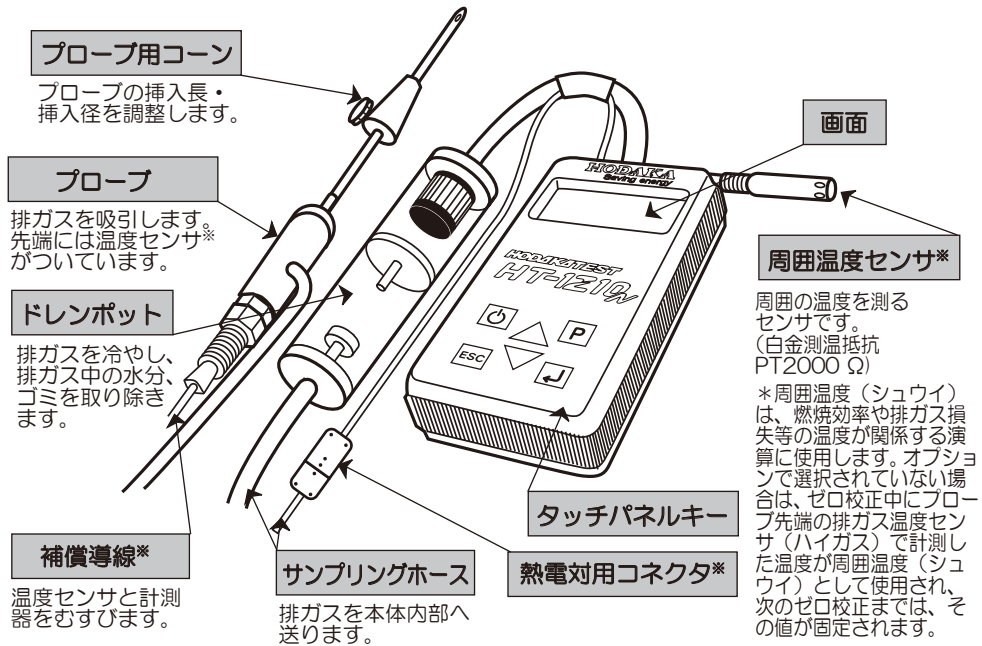


計測終了後は新鮮な空気でのパージを行いドレンポット内の水分を除去し、フィルターが汚れていたり、水分を含んでいる場合は交換してください。



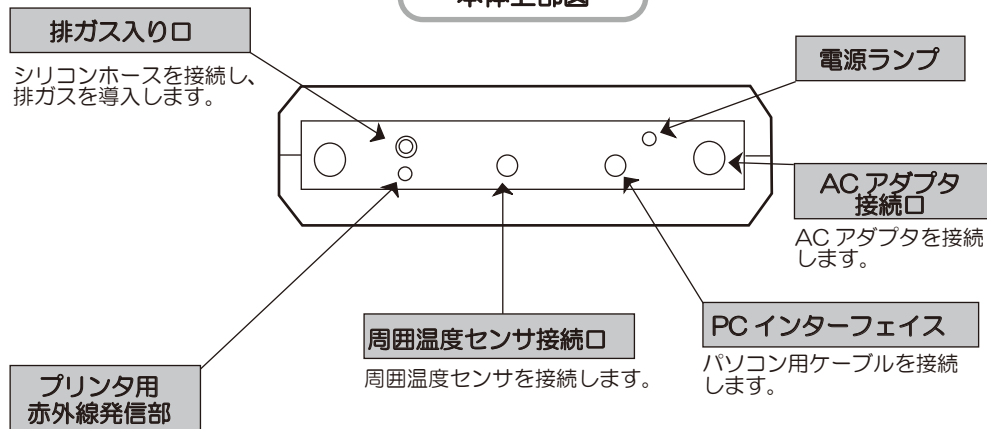
センサ寿命を長く保つ為に、計測は必ず燃焼状態が安定してから行ってください。特に燃焼立ち上げ時は、高濃度COが発生しやすい状態となっています。センサ異常の原因となりますので、十分注意してください。

各部の名称と働き

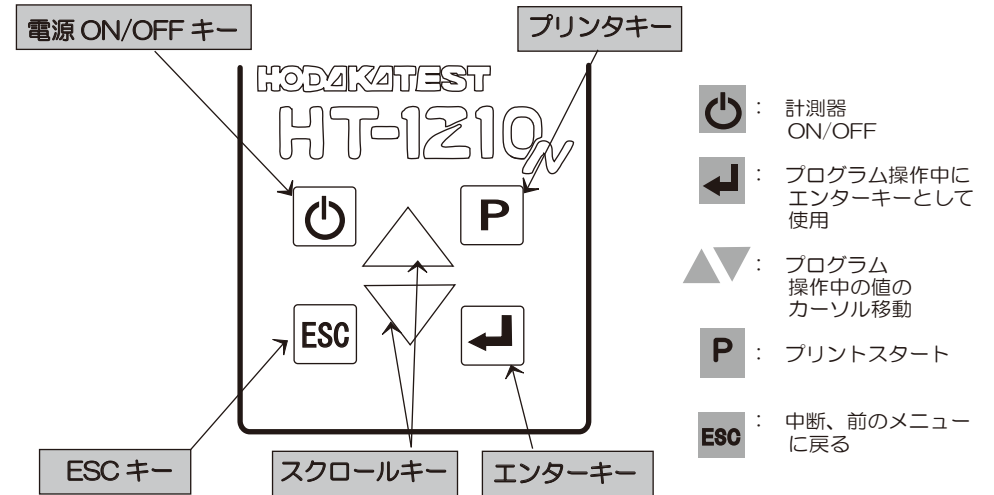


※印はオプションです。

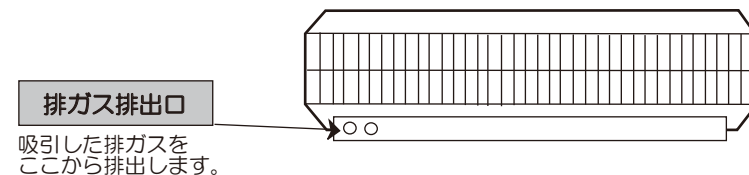
本体上部図



タッチパネルキー



本体下部図

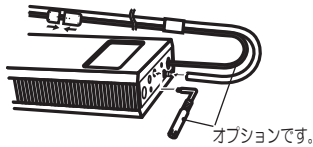


! 計測中に本体から排気されるガスには毒性が含まれますので、排気や換気を十分に行いながら使用してください。

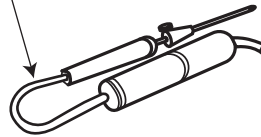
操作の前に

■各部の確認

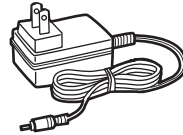
①ホース類・周囲温度センサ（オプション）をしっかりと差し込む。



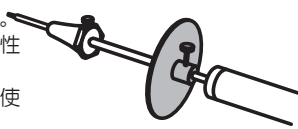
②ホースに亀裂や穴がないですか？



③AC アダプタはホダ力支給のものですか？



④プローブに反射板を取り付ける。（反射板はオプションです）。煙道などからの輻射熱によりプローブのグリップが溶ける可能性がある場合にご使用ください。右図のように、プローブに取付け、サイドのネジで固定してご使用ください。

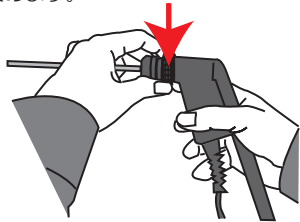


❗ 反射板が熱くなっている可能性がありますので、ネジを回す際はやけどに十分ご注意ください。熱くなっている場合はマイナスドライバーをご使用ください。

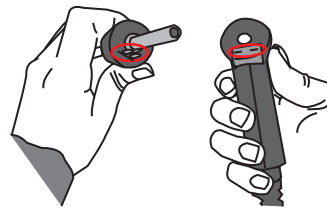
■プローブチューブの脱着

プローブチューブ脱着式プローブ（オプション）の場合

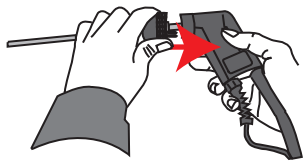
①矢印部のネジを反時計回りに回し、ネジを緩めます。



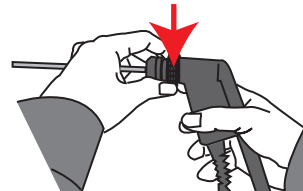
②プローブチューブ側の突起をプローブハンドルにはめ込みます。



③矢印方向に奥までしっかりとめ込みます。



④ネジを時計回りに回します。最後までしっかりネジを回してください。ネジの締めがゆるい場合、漏れが起り、正しく計測できない場合があります。

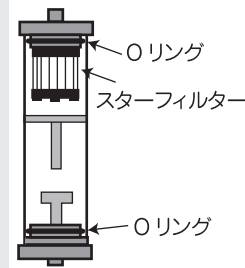


②シリコンワッシャー

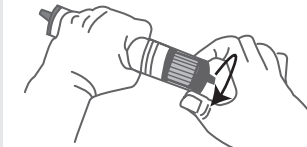
①メタルワッシャー

プローブチューブ側には、①メタルワッシャーと②シリコンワッシャーが取り付けられています。プローブチューブを脱着する際は、これらのワッシャーも必ず取り付けてください。

■ドレンポットの掃除

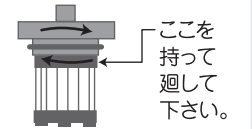


スターフィルターの交換



ホースを取り外してから、ドレンポットのジョイント部を回し、スターフィルターを取り外します。

ジョイント部とスターフィルターはネジ状になっています。

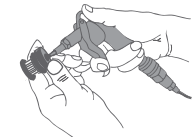


ここを持って廻して下さい。他の部分を廻すとねじれ等が起こる場合があります。

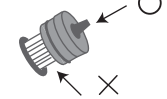
❗ 注意

スターフィルターが黒くなった場合は、エアで吹いても内部にスが入った状態ですので、必ず新しいフィルターに交換して下さい。

一応急処置としてエアで清掃する場合

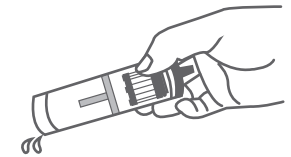
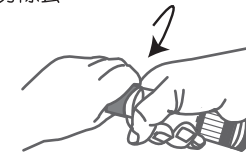
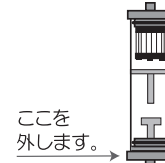


エアの向き



必ず、ホース取り付けジョイントからエアを吹いて下さい。フィルターに直接吹くと、フィルター内部に異物が入ってしまいます。その異物やスガが計測器側に入ると、吸引異常などを引き起こします。

ドレンポットの水分除去



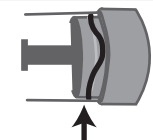
ジョイント部を回しながら取り外し、内部にたまった水を取り除きます。水分除去後は、再び回しながらジョイントをはめ込んで下さい。



ドレン水は僅かに酸性となっておりますので、ご注意ください。また、そのまま放置されますと危険ですので、水で洗い流して下さい。

❗ 注意

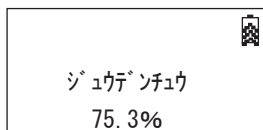
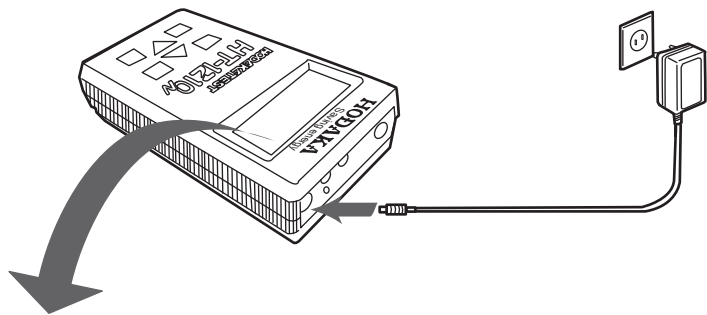
- 各Oリングがしっかり溝にはまっているか確認して下さい。
- Oリングがねじれてはまっていると、漏れの原因になる場合があります。



悪い例：ねじれてはまっているOリング

操作の仕方 基本編

1 バッテリーを充電する



AC アダプタを接続すると左記画面になります。

AC アダプタを接続している間は、バッテリーの充電率が画面に表示されます。
 バッテリーは充電率が100.0%になると電源ランプが約16秒ごとに点滅します。(100.0%以下は電源ランプが点灯したままです。)
 充電率0.0%から100.0%までの充電時間は約12時間です。

! バッテリーを充電する場合は、十分に放電させた後に充電することをお勧めします。できるだけ継ぎ足し充電はしないでください。バッテリーでの稼働時間が減少する可能性があります。

電源について

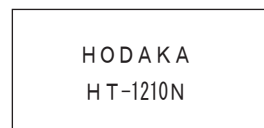
HT-1210Nは2種類の電源が選択できます。

- 1 内蔵の充電バッテリーのみで使用できます。(最大で連続約8時間使用可能)
- 2 ACアダプタを接続して使用できます。

ACアダプタ (AC100V 50/60Hz DC12V 100mA)

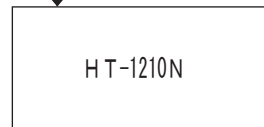
ACアダプタは本体付属の専用ACアダプタ (HT1301) しか使用できません。

2 スタートする



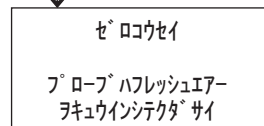
: 電源 ON

約3秒



自動的に進みます。

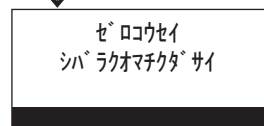
約2秒



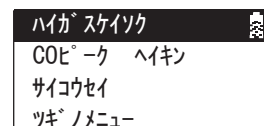
自動的に進みます。

: 次画面へ進みます。

約20秒



約30秒で画面下の黒い部分が減っていきます。



メインメニューの画面に変わります。

右上の電池マークは充電残を6段階で表示します。

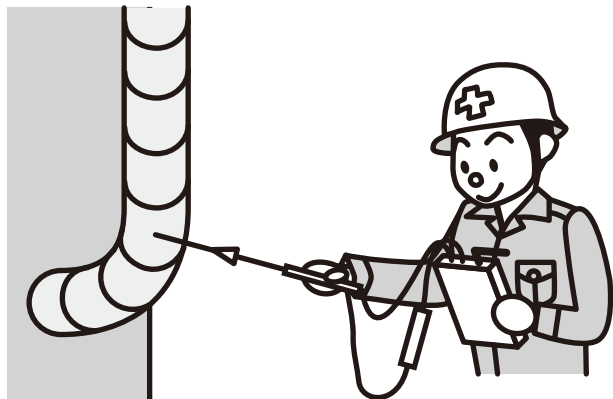
! ゼロ校正は必ずプローブを煙道から抜き、新鮮な空気を吸引してください。排ガスを吸引しての校正はセンサ不良が発生します。



メインメニューの画面で約20分間放置しておくと、切り忘れ防止のために自動的に電源が切れる auto-off 機能がついています。

操作の仕方—基本編

3 計測を開始する



※画面表示はCOppmを例にしています。

ハイガスケイソク	
COピーク ハイケン	
サイコウセイ	
ツギメニュー	

これがメインメニュー画面です。

- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ⏪ : ハイガスケイソク選択後、決定します。

- ▲▼ : ページの切替

オンド G	24.8°C
オンド A	25.5°C
CO	0ppm

これが排ガス計測画面です。

プローブを計測口へ挿入し、計測を行います。

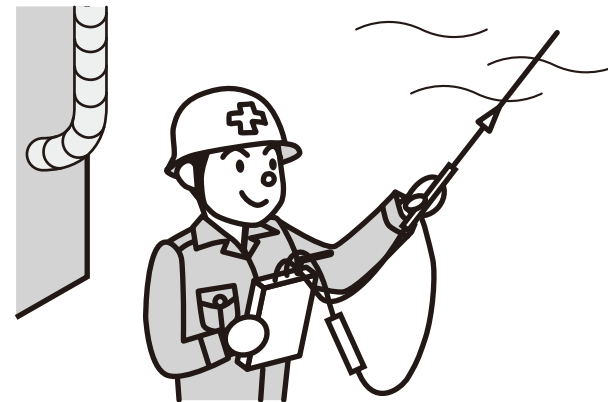
- 排ガス計測中に **ESC** : ポンプ Off (温度計測は続行します。)
- ポンプ Off の時 **⏪** : ポンプ On (再び排ガス計測を行います。)

- ESC** : ポンプ On の時 **ESC** x 2 回でメインメニューへ戻ります。
- ポンプ Off の時 **ESC** x 1 回でメインメニューへ戻ります。

計測画面でCO (一酸化炭素) が正常値でない場合は <8再校正する>を行ってください。

※ オンド G = 熱電対
オンド A = 周囲温度

4 終了する



プローブを計測口から出し、大気を吸わせませす。排ガス画面の値が正常値に戻ったことを確認します。

ESC : メインメニューへ戻ります。

: 電源ボタンを押し、終了します。

センサ寿命を長く保つ為に、計測は必ず燃焼状態が安定してから行ってください。特に燃焼立ち上げ時は、高濃度COが発生しやすい状態となっています。センサ異常の原因となりますので、十分注意してください。

<正常値とは>
CO 正常値 0ppm

正常値になかなか戻らない場合は <8再校正する>を行ってください。



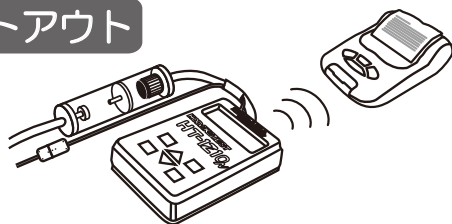
計測器内に排ガスが残っている場合は、下記のメッセージが表示されます。その場合は、そのまま大気を吸引させてください。

センサハイキ
320ppm
OFFキー: デンゲンOFF

操作の仕方—応用編

5 データの保存・プリントアウト

プリントアウトにはオプション HT1610 (赤外線プリンタ) が必要です。
※画面表示は COppm を例にしています。



オンド G	24.8°C
オンド A	25.5°C
CO	0ppm

← : 排ガス計測画面から次の画面へ進みます。

オンスイオンド / スモーク	
オンスイオンド	65°C

左画面は<13 範囲の設定>のプリントジニインジシマスカ? で Yes の設定の場合のみ表示されます。

温水ポイラ等の温度と一緒に保存できます。

▲▼ : 数値が変化します。
必要の無い場合は<13 範囲の設定>のプリントジニインジシマスカ? で No にしてください。

← : 次画面へ進みます。

左画面は<13 範囲の設定>のプリントジニインジシマスカ? で Yes の場合のみ表示されます。
スモークテストでサンプルしたスモークスケール No. ・アブラブンの有無が一緒に保存できます。

アブラブンはスモークテストでサンプルした時にフィルターペーパーに付着した未燃の燃料のことで。

▲▼ : 数値が変化します。
必要の無い場合は<13 範囲の設定>のプリントジニインジシマスカ? で No にしてください。

← : 次画面へ進みます。

: 印刷を開始します。

← : 保存画面へ進みます。

ESC : メインメニュー画面へもどります。

スモーク	1 :	0
スモーク	2 :	1
スモーク	3 :	1
アブラブ		アル

インサ	
ホゾン	
キャンセル	ESC

画面 5-1

ホゾンデータ
ホゾンデータ 1
25. 12 ' 06. 06 : 17
P1

左記画面は現在保存中のデータ画面です。

保存済のデータ上に保存することも可能ですが、前のデータは消えてしまいます。

左記画面は現在未保存のデータ画面です。
データは 100 データまで保存可能です。

▲▼ : 保存場所の変更

← : 保存

6 計測項目の変更

※画面表示は COppm を例にしています。

オンド G	24.8°C
オンド A	25.5°C
CO	0ppm

▲▼ : 排ガス計測画面、又は CO ピーク ハイキ画面の状態
▲と▼を同時に3秒間押し続けます。

黒いカーソルが出てきます。

← : 計測項目の変更; オンド G(°C)→オンド A(°C)→CO(ppm)
→CO(%)→表示なし

ESC : 計測項目の変更; 上記の逆順

▲▼ : カーソルの移動

▲▼ : 変更終了後、▲と▼を同時に押すと、カーソルが消え計測画面になります。

オンド G	24.8°C
オンド A	25.5°C
CO	0ppm

7 CO ピーク値・平均値を計測する

※画面表示は COppm を例にしています。

ハイカスケイ	
COピーク ハイキ	
サイコウセイ	
ツギノメニュー	

← : CO ピーク ハイキを選択後、決定します。

計測時間を 40 秒で設定した場合、初めの 30 秒は機器の応答性の関係でデータはとらずに、30 秒後からのデータを取ります。結果、40 秒から 30 秒引いた、10 秒間の平均とピーク値を計測します。

▲▼ : 計測時間を 35 秒～600 秒まで設定可能です。
1 回押すごとに 1 秒ずつ計測時間が増減します。押し続けると 10 秒ごとに増減します。

← : 次の画面へ

計測時間: 工場出荷時の設定時間は 40 秒です。

プローブを計測ポイントへ準備した後、エンターキーを押してください。

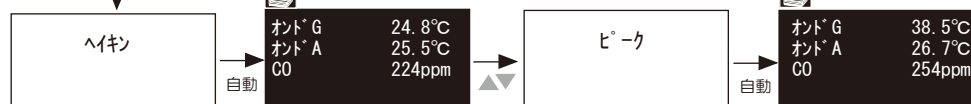
ケイカジカ
40

オンド A	24.8°C
オンド B	25.5°C
CO	254ppm

ポンプが On になり計測を始めます。設定した秒数が過ぎるとポンプは停止し、ブザー音が 2 秒鳴ります。

← : <5 データの保存・プリントアウト>の画面 5-1 に進みます。

▲▼ : ▲又は▼で、平均値とピーク値が交互に表示されます。



ESC : メインメニューに戻ります。

一度電源を切ったり、メインメニュー画面へ戻ると、平均値やピーク値はリセットされます。

操作の仕方—応用編

8 再校正する

ハイグ スケイソク
COピーク ハイキン
サイコウセイ
ツギノメニュー

ゼロコウセイ
シバ ラクオマチクダ サイ

- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ← : サイコウセイを選択後、決定します。

⚠ 再校正は必ずプローブを煙道から抜き、新鮮な空気を吸引して下さい。排ガスを吸引しての校正はセンサエラーが発生します。

ⓘ <再校正とは>
長時間使用した後や、高濃度のガスを吸引した後に、センサにガスが残留し、ゼロ点が0にならず数 ppm (~ 10ppm) 残ることがあります。この時には再校正の操作で、センサの校正を行ってください。

9 保存データを見る

※画面表示は COppm を例にしています。

ホゾンデータメニュー
セッテイメニュー
メンテナンスデータ
CO アラームセッテイ

- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ← : メインメニュー内にあるホゾンデータメニューを選択後、決定します。

ホゾンデータ/ヒョウジ
データショウキョ
データテンソウ HT=>PC

- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ← : ホゾンデータ / ヒョウジを選択後、決定します。

ホゾンデータ
シヨウ: 1
ミシヨウ: 99
トータル: 100

- ← : 次画面へ進みます。

ホゾンデータ	1	*
ホゾンデータ	2	*
ホゾンデータ	3	*
ホゾンデータ	4	

- *は保存済みの印です。
- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ← : 保存済みのデータを見ることができます。

ホゾンデータ
ホゾンデータ 1
25. 12. 06. 06:17
P1

- ← : 次画面へ進みます。

ⓘ 左端に P1 が表示されたデータは、排ガス計測で保存したデータで、右端に P2 が表示されたデータは、CO ピーク ハイキンで保存したデータとなります。

オンド G	24.8°C
オンド A	25.5°C
CO	0ppm

- ← : <5 データの保存・プリントアウト>へ進みます。

10 データの消去

ホゾンデータ/ヒョウジ
データショウキョ
データテンソウ HT=>PC

画面 10-1

- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ← : データノショウキョを選択後、決定します。

ホゾンデータ
シヨウ: 1
ミシヨウ: 99
トータル: 100

- ← : 次画面へ進みます。

データショウキョシマスカ?
イエ
ハイ

- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ← : ハイを選択後、決定します。

ヒトツノデータ
ショウキョシマスカ?
ヒトツノデータ
スペテノデータ

- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ← : ヒトツノデータまたはスペテノデータを選択後、決定します。ヒトツノデータを選択すると<画面 10-2>へ進みます。スペテノデータを選択すると全データ消去後<画面 10-1>へ戻ります。

ホゾンデータ	1	*
ホゾンデータ	2	*
ホゾンデータ	3	*
ホゾンデータ	4	

画面 10-2

- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ← : 消去するデータを選択後、決定します。

コノデータ
ショウキョシマスカ

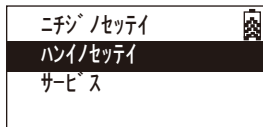
連続で消去することが可能です。

操作の仕方—応用編

13 範囲の設定をする

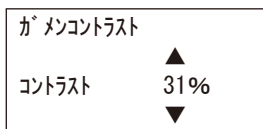
ここでは次の項目の設定が可能です。

- ①コントラストの調節 ②計測画面のページ数 ③言語表示 日本語/英語
④温水温度 プリントアウト時の印字 ⑤スモークNo. プリントアウト時の印字



画面 13-1

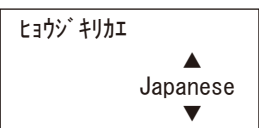
- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ← : ハンイノセッテイ を選択後、決定します。



- ▲▼ : コントラストを調整します
- ← : 次画面へ進みます。
- ESC : <画面 13-1 >へ戻り、設定終了です。



- ▲▼ : 計測画面のページ数を設定します。
- ← : 次画面へ進みます。
- ESC : <画面 13-1 >へ戻り、設定終了です。

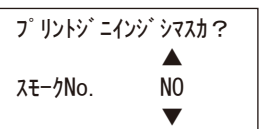


- ▲▼ : 表示を日本語と英語のどちらかを設定します。
- ← : 次画面へ進みます。
- ESC : <画面 13-1 >へ戻り、設定終了です。



- ▲▼ : プリントアウト時に印字するかを設定します。
- ← : 次画面へ進みます。
- ESC : <画面 13-1 >へ戻り、設定終了です。

温水温度は計測項目にはありません。プリントアウト時に一緒に印字するのみです。

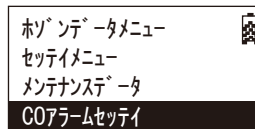


- ▲▼ : プリントアウト時に印字するかを設定します。
- ← : コントラスト画面へ進みます。
- ESC : <画面 13-1 >へ戻り、設定終了です。

スモークNo. は計測項目にはありません。プリントアウト時に一緒に印字するのみです。

14 CO アラームの設定をする

※設定は ppm のみとなります。



CO アラームセッテイ	ppm
アラーム 1	150ppm
アラーム 2	400ppm
アラーム 3	800ppm

COアラーム設定：
工場出荷時の設定値は以下の通りです。
アラーム1：150ppm
アラーム2：400ppm
アラーム3：800ppm

- ▲▼ : 黒いカーソルが移動します。
- ← : CO アラームセッテイ を選択後、決定します。

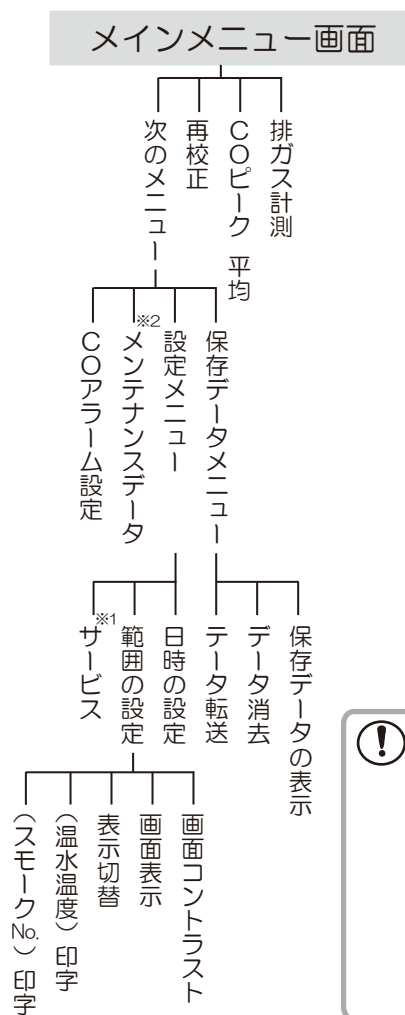
ppm→%への変換は0.0001を掛けてください。
例：100ppm→0.010%

- ▲▼ : 数値を設定します。
CO アラーム値は 10～10000ppm の範囲で設定できます。

▲又は▼を
1回押す : 10ずつ増減 (10～10000ppm)
押し続ける : 100ppm ずつ増減 (10～3000ppm)
押し続ける : 500ppm ずつ増減 (3000ppm～)

CO アラームは設定値以上になるとブザー音と液晶画面表示の両方でお知らせします。
アラーム1 : 3秒ごとのブザー音及び液晶画面での表示
アラーム2 : 1秒ごとのブザー音及び液晶画面での表示
アラーム3 : ブザー音が鳴り続ける。液晶画面での表示

メインメニュー内マップ



※1：サービスについては、使用しないで下さい。設定を変更されますと、故障の原因となります。万が一間違えてサービスを選択した場合は、すぐにESCキーを押してください。
 ※2：メンテナンスデータについては、ユーザー様では必要のない項目です。

計測項目

計測項目	単位
CO	[ppm]
CO	[%]
温度 (K 熱電対) オプション	[°C]
温度 (PT2000Ω) オプション	[°C]

製品仕様

型式		ホダカテスト® HT-1210N			
計測項目	CO (H ₂ 補償付) ^{※1} 一酸化炭素濃度	計測範囲	0 ~ 10000ppm (0.000 ~ 1.000%)		
		精度	計測値 = 0 ~ 200ppm : ±10ppm 計測値 = 200ppm ~ : 計測値の ±5%		
		分解能	1ppm (0.001%)		
		応答時間	30秒以内		
温度G (K熱電対)		計測範囲	0 ~ 650°C 0 ~ 1100°C (プローブチューブによる)		
		精度	±1°Cまたは計測値の ±1% (0 ~ 650°C) ^{※2} 計測値の ±2% (650.1 ~ 1100°C)		
		分解能	0.1°C (0 ~ 999.9°C) 1°C (1000 ~ 1100°C)		
温度A (Pt2000Ω) ^{※3}		計測範囲	0 ~ 100°C		
		精度	±1°C		
		分解能	0.1°C		
センサ	CO (H ₂ 補償付)	定電位電解式			
	温度G	K熱電対			
	温度A	白金測温抵抗体	Pt2000Ω		
本体	許容周囲温度	作動時 : 0°C ~ +45°C 保管時 : -20°C ~ +60°C			
	ディスプレイ	ドットマトリックス、4行表示 (4項目同時表示)			
	外形寸法	(W×H×D) 80 × 150 × 35 mm			
	重量	約 330g			
	電源	ACアダプタ (AC100V 50/60Hz DC12V 100mA)			
		内蔵ニッカド充電電池 (最大で連続約8時間作動)			
標準装備 *標準プロ ープはどち らか1つ	本体に内蔵	ポンプ、パソコン用インターフェース (RS232) データログ (100データまで記憶可能)、赤外線プリンタ用インターフェース			
	付属品	ACアダプタ、サンプリングプローブ、ドレンポット、キャリングケース、ソフトケース、スターフィルター			
オプション	部品名			部品コード	仕様、その他
	サンプリングプローブ/HT-1210N			HT-1229DS	L=180mm φ5 / ドレンポット付
	サンプリングプローブ (排ガス温度センサ付き)/HT-1210NT			HT-1006SS	L=180mm φ5 / ドレンポット付
	排ガス用プローブ				
	ロングプローブ			HT-1235DS	L=690mm φ6 / ドレンポット付
サンプリングプローブ			HT-1001AS	L=300mm φ6 / ドレンポット付	
L型プローブ			HT-1238DS	L=120mm φ5 / ドレンポット付	
L型プローブ			HT-1006LS	L=120mm φ5 / ドレンポット付	

*1：H₂成分の入ったガスを計測する場合に誤差が生じないようにする補償付

*2：精度はどちらか値の大きい方が適用されます。

*3：オプションの周囲温度センサ使用時の仕様となります。

製品仕様

オプション	部品名	部品コード	仕様、その他	
	ブローハンドル			
	ブローハンドル	HT-7201AS	ホース / ドレンボット付	
	ブローチューブ (ブローハンドルHT 7201AS用)			
	ブローチューブ (排ガス温度センサ付き)	HT-7235	L=500mm φ6 温度: 0~650℃	
		HT-7232	L=750mm φ6 温度: 0~650℃	
		HT-7233	L=750mm φ8 温度: 0~1100℃	
	温度用プローブ	K熱電対	HT-1251a	φ3×130L, 0~950℃, 気体 / 液体温度
			HT-1252a	φ1.5×130L, 0~950℃, 気体 / 液体温度
			HT-1253a	φ3×130L, 0~400℃, 気体 / 液体 / 食品用、先尖型
			HT-1254a	130L, 0~400℃, 表面 / 亀裂 / 気体 / 液体温度、パドル型
			HT-1255a	φ4×130L, 0~650℃, 表面 / 気体 / 液体温度
			HT-1256a	0~450℃, 表面温度 磁石付
			HT-1257a	0~180℃, パイプ / プレート温度 クランプ型
	空気温度プローブ	Pt2000Ω	HT-1382	0~100℃, 気体温度用
	周囲温度センサ	Pt2000Ω	HT-1321	0~100℃
	海外用ACアダプタ		HT-1318	AC100~240V
	アタッチケース		HT-1315	アルミ製 寸法: 350×460×155 重量: 2.9kg
	計測ソフト (RS232 通信ケーブル・USB 変換ケーブル付)		HT-2084	Online View 2000 (推奨 OS Windows7/8.1/10)
	赤外線プリンタ		HT-1610	ロール紙×1 単3乾電池4個付き
	プリンタ用ロール紙		HT-1636	5ロール
	反射板		HT-1388	輻射熱からのプローブの保護

※精度につきましては標準ガスを基準としております。

本仕様書は改良のため、予告無く変更することがあります。

保管

作動中の温度 : 0℃ ~ +45℃
 保管中の温度 : -20℃ ~ +60℃

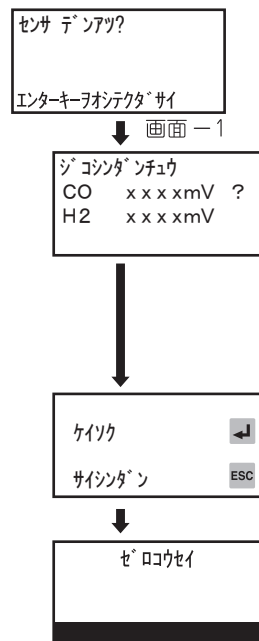
長期使用しない場合の保管



● **本体を長期使用しない場合でも、3週間に一度は必ず作動確認し、充電を行ってください。** 計測器は作動させずに保管していても、バッテリーは放電しています。そのまま放置し、完全に放電してしまった場合、充電しても電源ランプが点灯せず、充電することができない場合があります。もし、完全放電してしまい、充電することができなくなった場合は、故障かな?と思ったら (P.26) の「充電をすることができない」をまずご覧ください。それでも作動しない場合はサービスセンターへご返却ください。

● 常に乾燥した所に置いてください。

メッセージ一覧



センサ電圧の異常が考えられます。
 エンターキーを押してください。

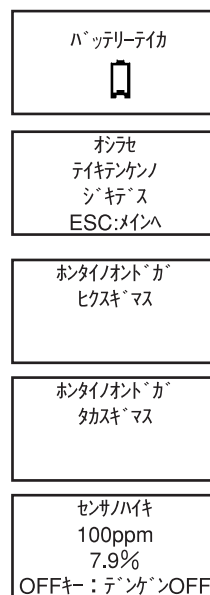
自動的にセンサ電圧の自己チェックが開始され、各センサの電圧が表示されます。電圧に異常がある場合は“?”が表示されます。

どれか1つキーを押してください。
 次画面に進みます。

■計測を続行する場合はエンターキーを押してください。
 ゼロ校正後、計測画面に移行します。
 この場合“?”が表示されたセンサに関しては計測できません。
 また、演算もできません。

■再診断する場合はESCキーを押してください。
 ゼロ校正後、全てのセンサの電圧に異常がなければ計測画面に移行します。
 1つでも電圧に異常がある場合は画面-1へ移行します。
 この操作を数回繰り返しても?が消えない場合はセンサ異常が考えられますのでホダカ㈱サービスセンターへご確認ください。

“?”が途中で消える場合があります。
 その場合はどれか一つキーを押して次画面に進んで下さい。その後エンターキーを押すと、ゼロ校正後、計測画面に移行します。



バッテリーの電圧が低下しています。
 充電してください。





前回の校正月より、約11ヶ月経過または使用時間が1000時間を越えました。校正をお勧めします。
 ESCキーを押すと通常の画面へ戻ります。故障ではありませんので、ご使用いただいても問題ありません。

本体内部の温度が低い状態です。
 本体を暖かくするか、暖かい場所へ移動してください。

本体内部の温度が高い状態です。
 本体を涼しい場所へ移動してください。

センサ内部にガスが残っている状態です。
 電源ON/OFFキーを押すと電源は切れますが、センサの異常につながる恐れがありますので、十分に新鮮な空気を吸引した後、電源を切ってください。


故障かな？と思ったら

症状	原因	対策
<ul style="list-style-type: none"> 充電する事ができない 電源ランプが点灯しない 充電画面が表示されない 	<ul style="list-style-type: none"> AC アダプタは正確につながっていますか？ 	AC アダプタの接触を確認
	<ul style="list-style-type: none"> AC アダプタは弊社指定のもの（HT1301）をお使いですか？ 	AC アダプタの交換
	<ul style="list-style-type: none"> 長期間使用せずに放置していた 	AC アダプタをつなぎ約 30 分～1 時間ほど充電します。（この間画面表示はされません）その後   キーを同時に 5 秒間押した後、手を離してください。本体が作動します。この場合バッテリー電圧がほぼ無い状態ですので、本体を立ち上げ計測画面でポンプを作動させ、AC アダプタを外し、電源が自動的に落ちるまで放置してください。その後十分に充電を行ってください。それでも直らない場合はサービスセンターへご返却ください（注1）
<ul style="list-style-type: none"> 電源を入れても作動しない 	<ul style="list-style-type: none"> バッテリーの充電不足 	AC アダプタを取付け充電してください
	<ul style="list-style-type: none"> 長期間使用せずに放置していた 	AC アダプタをつなぎ約 30 分～1 時間ほど充電します。（この間画面表示はされません）その後   キーを同時に 5 秒間押した後、手を離してください。本体が作動します。この場合バッテリー電圧がほぼ無い状態ですので、本体を立ち上げ計測画面でポンプを作動させ、AC アダプタを外し、電源が自動的に落ちるまで放置してください。その後十分に充電を行ってください。それでも直らない場合はサービスセンターへご返却ください（注1）
<ul style="list-style-type: none"> 温度 G 表示をしない 	<ul style="list-style-type: none"> 温度コネクタは正確につながっていますか？ 	温度コネクタの接触を確認
<ul style="list-style-type: none"> 温度 A 表示をしない 	<ul style="list-style-type: none"> 周囲温度センサは正確につながっていますか？ 	周囲温度センサの接触を確認


（注1） 上記操作を行った後、バッテリー電圧が残ったまま、電源を切り、AC アダプタと接続した場合、画面上の充電率が 100%になることがあります。この状態では充電ができませんので、必ず、放電後充電してください。

症状	原因	対策
<ul style="list-style-type: none"> CO 濃度が異常 	<ul style="list-style-type: none"> プローブに漏れがある 	プローブのネジが緩んでいないか確認し、緩んでいる場合は締めなおしてください
	<ul style="list-style-type: none"> サンプリングホースに穴がある 	穴部をカットして使用できる状態であれば、カットしてください
	<ul style="list-style-type: none"> ドレンポットに漏れがある（Oリング劣化、ドレンポット用パイプの破損等） 	サービスセンターへご返却ください
<ul style="list-style-type: none"> 「センサデンアツ？」のメッセージが表示される 	<ul style="list-style-type: none"> センサ電圧に異常がある 	P.25 メッセージ一覧をご覧ください
	<ul style="list-style-type: none"> ゼロ校正はプローブを煙道から抜き、新鮮な空気を吸引して行いましたか？ 	プローブを煙道から抜き、新鮮な空気でゼロ校正を行ってください。一度排ガスを吸引されてゼロ校正を行った場合は、センサに排ガスが残る可能性があるため、この作業を数回行ってください
	<ul style="list-style-type: none"> 長期間使用せずに放置していた 	十分に充電を行った後、再度計測器を立ち上げてください
<ul style="list-style-type: none"> プリンタに印字しない 	<ul style="list-style-type: none"> プリンタの電源は入っていますか？ 	プリンタの電源を入れる
	<ul style="list-style-type: none"> プリンタと本体の赤外線通信部の間に障害はありませんか？ 	障害物をどける 通信部分を乾いた布で拭く
	<ul style="list-style-type: none"> プリンタと本体の赤外線通信部の距離、角度に問題はありますか？ 	赤外線プリンタ取扱説明参照
	<ul style="list-style-type: none"> プリンタのコントラストに問題はありますか？ 	赤外線プリンタ取扱説明参照
<ul style="list-style-type: none"> Online View2000 と通信しない 	<ul style="list-style-type: none"> 通信ケーブルは正確につながっていますか？ 	通信ケーブルの接触を確認
	<ul style="list-style-type: none"> 通信ケーブルは弊社指定のものをお使いですか？ 	通信ケーブルの交換
	<ul style="list-style-type: none"> 本体は計測画面ですか？ 	本体を立ち上げ、計測画面へ
<ul style="list-style-type: none"> 上記以外 		サービスセンターへお電話ください

プリントアウトについて

 : プリントマークの付いている画面では、プリントアウトができます。
 プリントアウトするには、別売りの赤外線プリンタ（HT-1610）が必要です。
 プリンタの赤外線受信部を HT-1210N の赤外線送信部に向けてセットしてください。
 最長で直進にして約 1mまで受信できます。

※プリントアウトは COppm を例にしています。画面表示を CO% に設定した場合は
 プリントアウトされる表示も CO% となります。

 データ受信中に赤外線通過部に人がはいたりし、データを遮ると、データは正
 確に受信できません。

プリントアウトの印字は英語で出てきますので、下表の通り読み替えてください。

排ガス計測画面でプリントアウトした場合

CO ピーク値・平均値計測画面で
 プリントアウトした場合

```
*****
Measurement. H-1210N
SN:281527
*****
11.10.' 16 08:38

Cust.:-----

T-Gas      24.4°C
T-Amb      24.4°C
CO         0ppm

T-boiler   65°C
Soot no.   0 0 0
oily       negative
```

日時

```
*****
Measurement. H-1210N
SN:281527
*****
11.10.' 16 08:38

Cust.:-----

measure.time 60S

avelage
T-Gas      103.1°C
T-Amb      16.7°C
CO         55ppm

peak
T-Gas      132.2°C
T-Amb      18.4°C
CO         78ppm
```

T-Gas: 温度 G
 T-Amb: 温度 A
 CO: 一酸化炭素濃度

T-Boiler: ボイラ温水温度
 soot no.: スモーク濃度
 Oily: 油分
 positive: ある
 negative: ない

measure.time : 計測秒数

avelage : 平均値
 T-Gas : 平均温度 G
 T-Amb : 平均温度 A
 CO : 平均 一酸化炭素濃度

peak : ピーク値
 T-Gas : 温度 G ピーク値
 T-Amb : 温度 A ピーク値
 CO : 一酸化炭素濃度ピーク値

CO中毒について

CO（一酸化炭素）中毒とは、炭火、練炭、燃料用ガス、石油（CO は天然
 ガスや LPG には含まれていません）などの不完全燃焼で発生したり、車の排
 気ガスなどに含まれる一酸化炭素を含んだ空気を呼吸した場合に起こる中毒で
 す。

CO はヘモグロビンとの結合力が強い為、少量を吸入しても血液中の酸素運
 搬能力が著しく損なわれます。つまり、一酸化炭素が体内に入ると、全身に酸
 素が届かなくなるのです。

症状は濃度や吸入の時間に左右され、下記表のような症状を示します。

一酸化炭素の人体に及ぼす影響

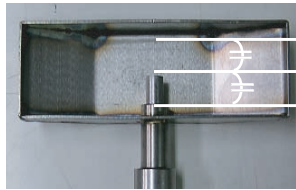
CO 含有率	人体の状況
100ppm	数時間の呼吸後でも目立った作用はない。
200ppm	1.5 時間後に軽度の頭痛を起こす。
400 ~ 500ppm	1 時間後に頭痛、吐き気、耳鳴りを起こす。
600 ~ 1000ppm	1 ~ 1.5 時間後に意識を失う。
1500 ~ 2000ppm	0.5 ~ 1 時間後に頭痛、吐き気、意識を失う。
4000ppm 以上	短時間でも吸引すれば生命の危険がある。

給湯器点検用 吸引フードの取付け方

※吸引フードはオプションです。



①計測補助フードのネジを緩めます。



②プローブ先端をフードの中心まで挿入します。



③しっかりとネジを締めます。

保証 / 校正・点検・修理

■ 保証

保証期間 : お買い上げいただいた日から 1 年

保証書 : ご購入後すぐに同封の保証書受付用紙にご記入の上、FAXにてご返信ください。
その後正式な保証書をお送りさせていただきます。
保証書は日本国内においてのみ有効です。

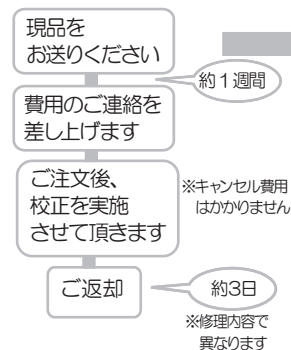
保証 : 保証期間内に取扱説明書に従って正常な使用状態にてご使用されていて故障した場合には、保証書記載内容に基づき無償修理を行います。
故障した場合は、校正・修理依頼書にご記入の上、保証書を添付してご送付ください。
製品の誤った使用方法による故障・事故またはお客様や第三者が受けられた損害につきましては、弊社は責任を負いかねますので予めご了承ください。
保証に関しまして、国内一海外間の輸送費は負担致しかねますので、予めご了承ください。

ホダカ株式会社 サービスセンター
フリーダイヤル 0120-091940
受付時間：月曜日～金曜日 10時～17時

トレーサビリティ（校正証明書、試験成績書、トレーサビリティ体系図）は、弊社にて発行いたします。（別途、手数料を申し受けます。）

■ 校正・点検・修理の手順

校正・点検・修理品の送付先



ホダカ株式会社 サービスセンター
〒535-0031
大阪市旭区高殿 1-6-17
TEL: 06-6922-5501

ホダカ株式会社 ホダカテスト部

〒535-0031 大阪府大阪市旭区高殿 1-6-17
TEL.06(6922)5501 FAX.06(6922)5895

E-mail ht@hodaka-inc.co.jp
URL http://www.hodaka-inc.co.jp